

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 **黒田みち**

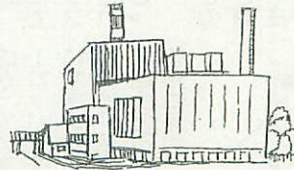
市会議員団控室 TEL 740-1111 (内線4020)
直通FAX 759-1811
黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ <http://kurodamich.exblog.jp>

危機管理上の問題も 国崎クリーンセンターで

臨時議会

(6月4日)



安全、安心のための

監視必要

4月稼働の「国崎クリーンセンター」内の議場で6月4日、造成工事費、環境影響評価事後調査費などを審査する臨時議会が開催されました。はじめての議場で、波乱万丈。私達の安心・安全のために見守り続けることが必要、と痛感しました。

造成工事費の次年度（H21年度）繰り越しの理由については、「事故発生時に汚水の河川流出を防ぐスライドゲート（約345万円）が、3月末完成予定から5月29日にのびた」ためと報告されました。

3月議会に報告せず、「4月から本格稼働」を華々しく打ち出しながら、「もしもの時には、土嚢を積む予定だった。が、何もなかった」と説明する組合事務局。

誰が責任を取るのか？

「危機管理上の問題」などの問いに「やむをえない」との答弁に終始。「ゲート完成の遅れ」を管理者（大塩市長）に伝えていなかったことも明らかになり、責任の所在、運営のあり方の問題が浮き彫りになりました。



国崎クリーンセンター内 議場

専門家の参加要請 委託企業は拒否

しばらく待機。参加されないで局長が開きにくいと「拒否された。」と言。あまりのことに一同唾然。

口頭とはいえ、手続きをふんだうえでの議会・議長からの正式要請でしたが、なぜ、事前に不参加がわからなかったのか、企業と事務局の関係、議会（一部事務局）組織の問題も明らかになりました。

基準値越えたデータ 出さず

昨年12月から試運転開始。その運転6日間のうちCO（一酸化炭素濃度）が4日間、水銀値は1日基準値を超えていました。

質疑の結果、組合事務局が「時系列で危機管理の具体化も含め資料を作成」することにしました。

「不適合事象」

11件 報告

引き続き「議員総会」で、「不適合事象11件」の報告と質疑。

この間、組合事務局で答弁できないことがあったため、議会として専門家の参加を要請。議長から「質問に十分答えられるよう、管理・運転をしている技術者（委託企業）の参加を求めている」ことが告げられました。

住民の安心・安全を守る上で、情報やデータを住民に開示、説明することが求められます。

黒豆のつぶやき

人気グループのKが飲酒、公然わいせつで逮捕されたが、起訴猶予処分で芸能界復帰。

一方、関西の人気タレントK（北野誠）は、ラジオ番組で「不適切発言」をしたとして松竹芸能から無期限謹慎処分。実質、芸能界から追放された。

どの点が「不適切発言」か、本人も周辺もいっさい語らず、不明のまま。いえない理由、圧力はなんなのか。

言論の自由がなくなれば、社会は暗くなる。「ナチが共産主義を攻撃した時・・・次に社会主義者を攻撃・・・ナチはついに教会を攻撃した。私は牧師だったから行動した。しかし、それは遅すぎた。」と続く、マルティン・ニーメラーの詩を繰り返し心に刻む。

6月議会・・・私（黒田）5つのテーマで質問・提案（12日（金）予定）

- ①作業所で働く障がい者の働きがいについて
- ②南部・北部処理センターの廃炉に向けた計画について
- ③「新型インフルエンザ」への対応と今後の課題について
- ④猪名川町との共同で、市立川西病院までのバスを運行する考え方について
- ⑤「介護事業所」に対する指導・監督について

・・・詳細については次号以降に報告します・・・



ぐらし耕す、命を耕す、県民の明日を耕す政治を「憲法が輝く兵庫県政をつくる会（37団体）」代表の田中耕太郎さんと共に・・・(^) v

日本共産党

「どんな日本をめざすのか」

「ルールある経済社会」



しているのは、今度天下を取るつもりでいる民主党ではなくて、共産党だけである」(東京新聞四月十九日付)といいました。



「雇用破壊」から守る

日本は資本主義国ですが、ヨーロッパの同じ資本主義国と比べても、国民の暮らしと福利を守るルールがないか、あっても不十分です。

正社員と非正規社員の均等待遇のルールを導入するなどし、正社員があたりまえの社会をつくりたい。

正社員の雇用を守ることも、世界に例のない「サービスマン」を求め、労働時間の上限を法律でしっかりと決めることが必要です。そうすることで、雇用を大幅に増やすこともでき、まさに一石二鳥です。

英国の政治学者、ロナルド・ドーア氏は「非正規労働者たちの不満をくみ上げて地方の政党支部にその人たちを組み込む」と

かかわらず、誰もが平等に必要な福祉を受けられる社会保障を目指しています。

それを象徴するのが、「非正規切り」で職も家も失った大量の労働者のための「派遣村」が、首都の真ん中につくられたことです。ヨーロッパでは、世界経済危機のなかでも、大量のホームレスが街の中に放り出されるようなことは起こっていません。

なかでも待たなしの課題は、「雇用破壊」から労働者を守るルールの確立です。派遣、請負など非正規雇用を、正規雇用と本格的に切り替え、安定した雇用を実現します。日本では非正規労働者が全体の四割近くにまで広がっていますが、ヨーロッパでは一割前後にすぎません。日本共産党は、派遣労働の原則自由化など規制緩和を元に戻すといっています。

自民党はもちろんだ、民主党にも、「非正規切り」にストップをかける立場はありません。「セーフティーネット」をついやるい

た一文受け取らず、大企業に重々としてをいえる日本共産党を伸ばすことこそ、日本経済を立て直し、「ルールある経済社会」をつくる力です。

日本では、ヨーロッパと比べて異常なことがいくつもあります。医療費を窓口で三割負担しなければなりません。後期高齢者医療制度のように、年齢による差別制度を導入している国も日本だけです。また、高すぎる国民健康保険料が払えず保険証を取り上げられ、医者にかかれない人が急増しています。こんな国も主要国では他に存在しません。障害者福祉では、障害が重い人ほど負担が増える「応益負担」を持ち込むという冷たさです。

日本共産党は、この異常な「ルールなき資本主義」を正して、日本を「ルールある経済社会」につくりかえることを当面の目標としています。そうすれば、資本主義の枠内でも、経済危機から国民

正社員と非正規社員の均等待遇のルールを導入するなどし、正社員があたりまえの社会をつくりたい。

英国の政治学者、ロナルド・ドーア氏は「非正規労働者たちの不満をくみ上げて地方の政党支部にその人たちを組み込む」と

かかわらず、誰もが平等に必要な福祉を受けられる社会保障を目指しています。

日本では、ヨーロッパと比べて異常なことがいくつもあります。医療費を窓口で三割負担しなければなりません。後期高齢者医療制度のように、年齢による差別制度を導入している国も日本だけです。また、高すぎる国民健康保険料が払えず保険証を取り上げられ、医者にかかれない人が急増しています。こんな国も主要国では他に存在しません。障害者福祉では、障害が重い人ほど負担が増える「応益負担」を持ち込むという冷たさです。

に緊急事態です。こんな状態で、どうやって国民が将来に希望を持てるでしょうか。

は大企業を敵視することではまったくありません。国民には負担増を押し付け、ひたすら財界・大企業を応援する政治を転換し、大企業にふさわしい社会的責任と負担を求めること、です。軍事費などの無駄にメスを入れるとともに、大企業や大金持ちにもうけ相應の負担を求めれば、社会保障は立派に立て直すことができます。

「財界いなり」で社会保障を抑制してきた自公政権に、「ルールある経済社会」に向けた改革ができないことははっきりしています。民主党も、「脱官僚支配」「脱財界支配」は、いけません。そのため、財源も、大企業や大産家に相應の負担を求める姿勢はなく、結局、与党と同様、庶民に重くのしかかる消費税の増税でまかなおうとしています。



「雇用を守れ」と直接申し入れるなど、「非正規切り」をやめさせるために全力をあげています。

日本は社会保障の面でも、あらゆる分野で「福祉破壊」がすすんでいます。これは「ルールなき資本主義」の異常さを示すことも

に、内閣を冷や込ませ、経済悪化の大きな要因ともなっています。日本共産党は、「ルールある経済社会」の実現で、お金があるなしに

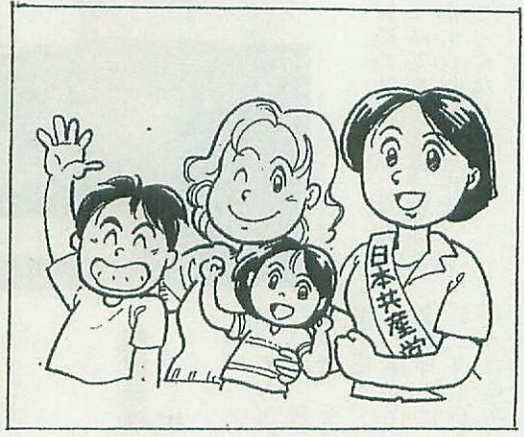
生活保護では、受給資格のある生活水準の人が実際に保護を受けている割合(捕捉率)は一・二割にすぎません。ヨーロッパ諸国の七・九割に比べて異常な低さで、餓死に追い込まれる人がでるまま

日本の社会保障がどのように異常になったのは、歴代の自民党政権が、「構造改革」の名で社会保障費を毎年二千二百億円削減する路線をつづけているからです。

日本共産党は「ルールある経済社会」を目指していますが、それ

日本共産党は「ルールある経済社会」を目指していますが、それ

社会保障を立て直す



政治の中身を変えてほしいわびず

日本共産党は「ルールある経済社会」を目指していますが、それ